

まえがき

1986年から1992年にわたって刊行した『日本の地質』(全9巻)は、日本の地質研究の成果を網羅した出版物として、また、地域や日本列島の地質構造発達史を解明する上で必読の書として、大きな役割を果たしました。

同時に、人間の生活に関わりの深い第四紀学や応用地質学にも重点がおかされました。それらのこともあり、自然改造に伴う地盤災害その他の自然災害、環境悪化に対する対応や防災対策が進められるなかで、地質コンサルタント・建設・土木・自然環境などに関わる諸分野でも広く利用されました。

しかし、刊行以来20年近い歳月が流れ、その間、地域地質の研究は進み、それらをとりまとめる要望が強くなりました。また、兵庫県南部地震(1995)や三宅島の噴火(2000)をはじめ、地震災害や気象災害が続発して、改めて自然との共生のあり方が問われ、新しい地質情報が求められています。

この増補版では、この間にとくに研究の進んだ次の諸点について補い、あるいは改訂を加えました。北海道地方の石油・天然ガス地域、東北地方の岩手山などにおける地質災害、関東沿岸の海底地質や関東平野の孔井地質層序、中部・近畿・中国地方における地震災害、四国地方の南海トラフの海底地質、九州地方の水質汚染等です。その他、新しい文献もCD-ROM(付録)に大量に盛り込まれており、地質学に関わる多方面での利用に堪えると確信しています。

なお近年、市町村の合併がすすみ各地で名称変更がおこなわれていますが、原稿執筆時とのかねあいで名称変更に十分対応できていないところもあります。

2005年8月

日本の地質増補版編集委員会